

企業等との連携授業

医療専門課程 視能訓練士科

授業科目名	臨地実習	単位数	540時間
実施期間	令和3年6月7日(月)～令和3年10月22日(金) 令和4年1月17日(月)～令和4年1月28日(金)		
実習・演習等の目的及び概要	<p>学校で学んだ基礎科目・眼科専門分野における講義、校内での実習の基礎知識をもとに、臨床現場で検査方法・訓練治療の実際に触れ、「知識・技術・態度」を習得し、豊かな人間性と社会性を身に付けた視能訓練士を目指します。</p> <p>①.医学に基づいた深い知識を持ち、視能訓練士の役割を果たすことのできる技術を養う。 ②.保健、医療、福祉における視能訓練士の役割を理解し、他職業との連携の中でその役割を果たすことができる知識・技術を養うことを目標とする。 ③.職業人として必要な倫理観、人間性の向上に努力し、特に他人の痛み、苦しみに共感できる感性を養う。 ④.社会情勢の変化を認識し、専門職業人として主体的、継続的に学習する態度を養う。</p>		
企業等との連携の基本方針	視能訓練士養成所指導ガイドラインに基づき、①実習指導者は、視能訓練士の免許を受けた後5年以上業務に従事した者で②学校の提示する評価実習の目的や実施に関して承諾が得られた病院または施設にて実習を実施する。		
企業等との連携	<p>1. 病院・眼科の役割 (1) 病院の方針・特徴を学び、その社会的役割を知る。 (2) 眼科の1日、1週間の流れを知り、その果たすべき役割を理解する。 (3) 医療チームにおける視能訓練士の役割、患者にとっての存在意義について考える。</p> <p>2. 患者対応 (1) 受診される患者さんの状況(社会的側面、心理的側面など)を理解する。 (2) 指導者・現場のスタッフの患者対応を観察し、ソーシャルマインドに触れ、コミュニケーションスキルを体得する。</p> <p>3. 基礎知識と課題発見 (1) 実際の検査を通じこれまでの知識技術を確認し、自分自身の課題を発見するとともに今後の勉強に反映させる。 (2) 指導者の検査の様子を観察し、検査の目的・結果について考える積極的な姿勢を身に付ける。</p> <p>4. その他 (1) 観察力を養い、実習の記録作成により、まとめ方・表現の方法を学ぶ。 (2) 基本的な社会人(実習生であると同時に)としてのマナーを、身に付ける。</p>		
学修成果の評価方法	<p>次の事項が満たされたとき、履修が認定される。 1.80%以上の出席と実習評価合格点に達していること。 2.実習ノートを期限内に学校に提出していること。 実習評価は①服装・規律②実習態度③検査技術の習得④学習態度の4つの領域、13評価項目を設定し、それぞれについて5段階評価を行う。また、それをもとにS,A,B,C,Dの5段階で総合評価を行い、C以上を合格とする。</p>		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
実習開始2ヶ月前～	実習前教育・ロールプレイにて、接遇をはじめ、総合的に患者をみる知識、観察力、洞察力を養う。	学内
実習開始1か月前	外部実技試験にて、実習先の視能訓練士による視力検査と視野検査の実技試験を行い、臨地実習までに必要な技術・知識を確認するとともに、今後の課題を見出す。	学内
実習開始1週間前	実習前説明により、臨地実習に臨む姿勢や留意点を確認する。	学内
実習期間	実習手引きに則り、観察・検査・評価を中心に実習する。毎日、実習指導者に実習記録を提出し、学び・気づきを深めるとともに知識を整理する。	各実習施設
実習期間中の登校日(1日/5週間)	専任教員が個別面談により、学生一人ひとりが抱えている問題の解決方法を提案する。また、臨地実習での学生の気付きを把握し、今後の課題を確認する。	学内
実習終了後2週間以内	症例報告会により、臨地実習先での症例を検討し、プレゼンテーションを行う。	学内
連携する企業等	東邦大学医療センター佐倉病院、井上眼科病院、春日部市立医療センター 等	